

1909年創設の「汝羊寮」 今春寮生がゼロで 存続の危機に



ここ数年の間に大きく姿を変えた札幌駅北口エリアの北12条西2丁目、レトロな味わいの建物が、高層ビルに囲まれるように佇んでいる。北大キリスト教青年会（YMCA）の学生寮である「汝羊寮」だ。同じ北大寮でも、バンカラ学生でおなじみの「恵迪寮」と比べて知名度は低い、その歴史は古く、初代寄宿舎の完成は1909（明治42）年にまで遡る。この伝統ある「汝羊寮」がいま、創設以来の危機に直面している。今春、寮生が初めてゼロになったのだ。寮の存続に奮闘するOBの松尾悠さんと、10月末で退職した寮母の細貝りつ子さんに話を聞いた。

（フリーライター・内海 達志）

旧約聖書が名前の由来

まずは「汝羊寮」の歴史を簡単に振り返っておこう。正式名称は「北海道大学基督教青年会寄宿舎汝羊寮」。1876（明治9）年、札幌農学校へ進んだ内村鑑三らが「札幌基督教青年会」を組織し、同会は一時消滅したものの、1901（明治

成21）年に刊行された『北海道大学キリスト教青年会の歩み―羊たちの群像―』によれば、1933（昭和8）年の出来事を記すページに基督教青年会が佐藤昌介教授により「汝羊会」と命名されたとの記載があり、1938年（昭和13）の項に「寮生10名、汝羊寮改築決意文書作成、署名・血判」の記載があ

るので、この頃には寄宿舎は「汝羊寮」と呼ばれていたと思われる。

原を想起させる、いいネーミングだと思う。

ちなみに、寮名は旧約聖書詩編100編3節「わたしたちは主のもの、その民 主に養われる羊の群れ」、またはエゼキエル書34章31節「汝らは我が羊、我が牧場の群れなり」が由来とのこと。全国で羊が一番似合うのは北海道であり、広大な草

寮が完成した1909年のページを見ると、「総工費1950円」「11名の学生入寮」「歓迎会歓迎の辞 有島武郎予科教授」といった記述がある。当時の1950円は、現在の700万円くらいだろう。

ビルの谷間で、昼間でも仄暗いのが気の毒だ。昔の旅館を彷彿とさせる

る玄関に立ち、声をかけると、寮母の細貝さんが迎えてくれた。

「寮自治」と「学Y活動」

寮生が去った館内は、やはり空虚でわびしい。「ひとり留守番をするのは心細かったですが、もう慣れました」そう話す細貝さんは、取材日の半月後、10月末をもって15年の寮母生活にピリオドを打った。

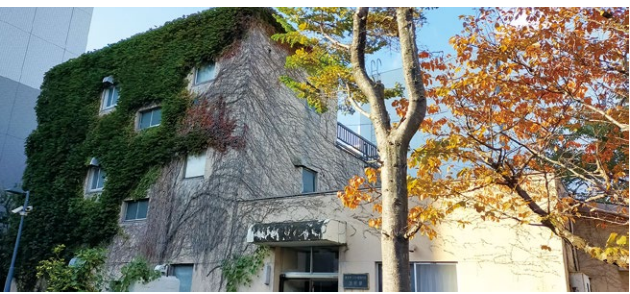
部屋は全18室。ベッドと机が置かれただけのシンプルな空間だが、歴代寮生の汗と涙が染みついていような印象を受けた。全体的に老朽化は隠せないが、細貝さんによれば、「丈夫な造りで、裏のマンションが建った際の耐震検査では、まったく問題ありませんでした」という。

ごした。

寮に関する諸々のことを全会一致で決める「寮自治」は特色のひとつ。解決しなかった場合はOBによる理事会で審議するが、最終的には人数が多い学生の意思が尊重される。「掃除当番やらバーベキューの日程やら他愛のない議題もありましたが、よりよい寮生活を実現するための議論は深夜まで白熱しました」

入寮希望者との面接は、原則、全員が出席する。15人くらいの寮生がズラリと並び、たった1人と向き合うわけだ。

「基本は入れる方向で面接するのですが、ウエットな人間関係の寮生活に適応できなさそ



▲築50年を迎えた「汝羊寮」

現在の建物は、今年で築50年を迎えた。かつては周囲に緑があふれ、日当りも良好だったのだろうが、いまは



▲食堂にはキリスト教関係の書籍が並ぶ



続きは『**月刊クオリティ**』本誌を
ご覧ください。

▼ ご購読のお申し込みは ▼

○インターネットでのお申し込みはこちらから
<https://qualitynet.co.jp/koudoku/>

○お電話でのお申し込みはこちらから

TEL 011-644-0101

(9:00 ~ 17:30 土日・祝日をのぞく)